

ボウシテナガザルの人工保育

○平賀 真紀
(よこはま動物園)

ボウシテナガザル (*Hylobates pileatus*) は東南アジアのタイ東部とカンボジアに生息しているテナガザルの仲間で、国内では3園館で13頭のみ飼育されている。

2016年12月9日に、No.9: 雌がブリーディングローンにより来園した。来園時7歳で、性成熟が十分でなく、オスとのペアリングは進まなかったが、2018年の冬頃からペアリングの際に交尾行動が見られるようになり、2021年1月13日に出産した。出産が昼間に行われ、母親は生まれた子 No.12: 雌を手でつかむとそのまま床に落とした。育児放棄の可能性を考慮し、事前に床には藁を敷き詰めており、子は藁の上で泣いていて無事な様子であった。しかし、様子を見ていても母親が興味を示すことはなかったため、母親から取り上げ、人工哺育を開始した。

子は初めからミルクをよく飲み、順調に成長した。体調が安定してきた25日齢で初めて屋外で日光浴した。生まれてすぐに哺育室へ移動したため、それまで他のテナガザルの声を聞く機会はなかったが、日光浴中にグレートコールのような鳴き声で鳴くことができた。外にも慣れたところにテナガザル舎へ連れていき、母親と会わせたがやはり母親が興味を持つことはなかった。他個体にも会わせてみたが、怖がって近寄らなかつたり、威嚇してくるなど友好的な態度は見られなかったため、早期に母親に戻すのは断念し、無事に生育した後に他個体との同居を行うことを目標とした。

公開は気温の高くなる3月から不定期に月に2~3回実施し、成長過程は公式ブログや公式SNSで随時紹介した。